

No. 1148

新宿美術広場

超高層ビルが、わがもの顔でそびえる新宿。街に土の香りはなく、あくまでメカニックで冷たい。

そんなところから「新宿には文化が育たない」といわれるのかも知れない。

こんな新宿に美術の広場を、作ろうと“壁面芸術”の珍しい試みが1月10日オープンした。高層ビルの壁に一年中、洋画や美術工芸品を展示しようというもので、百号前後の大作がずらりと展示されたフロアはさながら巨大な画廊。

ビルの利用者は無料で鑑賞できるし、作者も多くの人に見てもらえればと大歓迎で、

新しい試み壁面芸術はなかなか好評のようだ。

水鳥のうた

羽田空港北側に広がる東京湾埋め立て地「大井ふ頭」。

ここに自然にできた沼地がある。東京都が建設用地として土砂を運び海を埋め立てた。くぼ地に雨水がたまり、岸辺にヨシやガマハマヒルガオやウスベニツユクサが根をおろした。水生こん虫がわき小魚が住む。自然は時間をかけて沼地をつくった。

いつごろからか、この人工島の沼地に水鳥たちがやってくるようになった。

そしてできあがった水鳥の楽園。いまカモが約6千羽カモメが数千羽その他コサギなど多くの水鳥がこの沼地にせい息する。

東京の片隅に忘れられたようにある小さな自然。

鳥は飛ぶ。鳥は大空をかけめぐる。

人影はなく風の通りすぎる音にまじって水鳥のうたが沼地に響く。東京都は近くこの沼地を埋め立て、倉庫や市場を建設する予定だ。自然が時間をかけてつくりあげた水鳥の楽園は又ひとつ消える。

水鳥のうたが都市のけんそうに吞まれてしまう日、そこにはどんなうたが聞こえるのだろうか。東京の変わりゆく素顔のひとつがここにある。